

戦前期の民間助成財団における助成審査に関する研究**－原田積善会を事例として－**

○ 山口県立大学 長谷川 真司 (会員番号 006363)

キーワード：民間助成財団・原田積善会・助成審査

1. 研究目的

戦前期の民間助成財団に関する研究は、創設者や設立の経緯等に焦点を当てた研究は行われてきた（林・山岡 1984）。しかし、助成の動向を踏まえ実態を明らかにする研究は一次史料へのアクセスの問題から進んでこなかった。戦前期資産の面からも助成額の面からも規模が日本で一番大きな財団である原田積善会については、助成記録から戦前期の助成の実態を明らかにする研究が近年行われている（長谷川 2014）。また、財団の保有する史料についても目録作成が行われている。

本研究では、戦前の民間助成財団が助成先を決定する際の選考基準について、原田積善会の史料を用いて実証的に検証を行う。そして、今まで一次史料へのアクセスの難しさから取り組まれてこなかった民間助成財団の助成決定に至る審査の内容等について質的に検証することで、助成の実態をさらに詳細に明らかにすることを目的とする。

2. 研究の視点および方法

原田積善会の所有する「寄付申込記入帳」と「寄付審査録」の助成を行う際の選考に関連する史料を用い、財団の助成実態と照らしながら、戦前の民間助成財団が助成を決定する時どのような点を考慮していたのかについて寄付審査録の記録が残っている1931（昭和6）年から1941（昭和16）年について実証的に検証を行う。

3. 倫理的配慮

本研究では、史料の取り扱いにおいて団体の名称及び個人名などの情報に関してプライバシーと人権の点から不利益が生じないように、日本社会福祉学会の「研究倫理規程」に基づき倫理的配慮を行う。

4. 研究結果

寄付申込記入帳は、財団の創設者である原田二郎が亡くなった1930（昭和5）年5月5日の後5月14日から記帳が始まっている。寄付申込帳には、直接財団を訪れた場合「来訪」の記載があり、郵便等で申込があった場合は「来状」の記載がされている。また、依頼者名、紹介者がいる場合は紹介者名、そして寄付依頼理由が簡潔に記載されている。1931（昭和6）年から1941（昭和16）年には、来訪、来状及びこれらの記載なしを含め2,587の施設名や団体名等があった。この間に実際に助成が行われた数は2,324件であり、寄付申込帳に記載のある場合の助成率は9割になる。記載のない1割については、原田積善会の特徴

である個人救済（259件）がほぼあたるため、実際には寄付申込帳に記載のある施設や団体については助成が行われている。

寄付審査録には、申込者（個人・団体）について助成申込をした関係者の名前や原田積善会を紹介した人物の名前や団体の概要などの団体について記入する欄と、調査委員会意見として助成を求めるに至る理由を記入する欄がある。創設者が亡くなるまでは、寄付審査録などの助成先の選定を組織立てて行っていた記録はない。1931（昭和6）年から1941（昭和16）年に、1,313件の審査録が残っている。ただし、原田積善会の助成は複数年度に渡る分割払いも多いなか、それらについては1つの記録にまとめられているため件数が少ないこともある。

助成決定プロセスの特徴としては、仲介者（助成申込に係る仲介者の多くが内務省などの中央機関の関係者や中央及び地方の社会事業協会の関係者）の存在や、内務省や東京府などの補助金を受けている施設や団体であることが重要な役割を果たしている事がある。また、三重県や東京府など創設者や財団とゆかりのある場所や財団と関係のある人物に関係する施設や団体に対して助成が行われていることがある。そして、一度助成を受けている施設や団体は継続して助成を受けやすくなることがある。

5. 考察

助成決定プロセスにおいて仲介者がいることや内務省や東京府などから補助金を受けていることは、施設や団体の活動への保証がされ、助成を受けやすくさせている事がある。行政の助成などを受けている事が信頼性につながり、他の助成団体から助成を受けやすくしており、奨励助成が本来の役割を果たしている。また、内務省や東京府の推奨を受けている事や仲介者は、深刻な社会問題に取り組む施設や団体、また公的資金では補助できない分野で活動を行っている施設や団体を推奨している場合が多く、財団自身として助成プログラムを持っていないなか、結果として助成先の施設そして施設が活動を行う分野で重要な意義をもつことがある。

また、継続して助成を受ける場合、調査委員会意見の欄をみると、最初の助成の際書かれた寄附審査録の文章が大部分そのままその後の助成審査の際も使われている。ここから、一度助成した団体に対しては、その後助成の申込があった場合2回目以降は審査がそれほど厳しくなく、簡単に助成が決定されていたと推測される。

文献

長谷川真司(2014)「助成実績からみる創設期の原田積善会に関する実証的研究」『コミュニティソーシャルワーク』13, 58-68

林雄二郎・山岡義典(1984)『日本の財団 その系譜と展望』中公新書

※本研究は JSPS 科研費 JP17K04226 の助成を受けたものです。